

第2回高知県立学校の校名に関する検討委員会における各学校の学校関係者の代表からの意見聴取において、新たに提出された文書

**〔新たな中高一貫教育校〕**

高知南中学校・高等学校（学校関係者） 1頁

**〔高吾地域拠点校〕**

須崎高等学校（学校関係者） 7頁

# 要 望 書

平成 28 年 3 月 3 日

高知県教育委員会  
教育長 田村 壮児 様

住所 高知県高知市棧橋通6丁目2番1号  
氏名 高知県立高知南中学・高知南高等学校  
校友会会長 秋本 洋雄  
PTA会長 川上 政寿  
(進取会、国際教育振興会)

## 「高知県立学校の校名に関する検討委員会」への要望

高知県の県立高等学校再編振興計画について、平成 26 年 1 月 27 日の教育委員協議会で協議された議事に高知南中学校・高等学校と高知西高等学校の統合計画(案)が発表されました。その後、メディアによる報道もあり、以降両校の関係者ならびに諸機関ともに様々な協議検討が行われて参りました。そして、平成 26 年 10 月に、平成 26 年度から平成 35 年度までの 10 年間の県立高等学校の進行の方向性及び適正な規模と配置を示す「県立高等学校再編振興計画」と「前期実施計画」が策定されています。

両校関係者とともに、県教育委員会からの説明や教育委員協議会での討議など、協議を重ねて参りました。本校においては、全 14 回の協議会の中で直接本校に対して、5 回の意見交換を開会し、統合案に対する撤廃の意見から、統合する場合の課題と改善等についても、様々な角度から短い期間の中でありながらも協議し、最終的に上記の策定に至っています。

在校する学生や生徒は勿論のこと、校友会や P T A、進取会、国際教育振興会また教職員を含め、学校の統合という方向性は非常に心を痛める思いを抱いています。

しかし、苦渋の思いを抱えながらも協議を重ね、その趣旨を受け止め「県立高等学校再編振興計画」と「前期実施計画」による一定の方向性が議会を経て策定された結果については、南中学校・南高等学校および西高等学校の関係者として、一定の社会的な立場と常識ある行動と認識のもと再編振興計画を進め、助言していくことが求められると考えています。

そのひとつでもある学校名等の検討については、特に公平かつ中立な立場での見解や意見を述べることが、これからの高知県の教育方針としても必要だと思えます。

そこで、これから「高知県立学校の校名に関する検討委員会」で協議していく過程で、私たち高知県立南中学校・高知南高等学校に關係する諸団体をはじめとする一同の要望を提出させていただき、思いや考えを十分に図って頂ければ幸いです。

## 要望事項

1. 新に設置される中高一貫教育校に対しては、統合する両校の既存学校名（「南J」「西J」の漢字標記や英語標記、またそれらに類する表現標記）を使用しないこと。  
1. 新に設置される中高一貫教育校は、新たな学校名を要望いたします。

## 要望する校名（案）

1. 高知県立附属中学校・高知県立附属高等学校

1. 高知県立高知国際フロンティア中学校・高知県立高知国際フロンティア高等学校  
(Kochi International Frontiers Junior & Senior High School)  
(略称：KIFS of Kochi Prefectural)

1. 高知県立高知国際中学校・高知県立高知国際高等学校  
(Kochi International Junior & Senior High School)  
(略称：KIS of Kochi Prefectural)

## 要望理由

校友会およびPTAとしても、学校名については十分考慮し幾つかの案が出されま  
した。すべてを要望することは難しいですが、その中でこれから進められようとして  
いる新しい学校教育や国際化の流れに向けて、そして何よりも未来ある子ども達のこ  
れからの学校として、後世に伝えられる学校名を上記に標記するとともに、以下にそ  
の理由を併記させていただきます。

1. 平成 30 年度から西高敷地内への新設中学校および既存の南中学校による県立中学  
校の2体制がスタートします。あわせて、平成 33 年度からは南高校のグローバル  
教育と西高校の英語科を統合した、新たな中高一貫校を設置するという基本理念か  
ら導かれる学校名の検討をお願い致します。

1. また、新たな中高一貫校は、グローバル教育を教育活動の柱に位置付け、自らの課  
題を発見し判断する探求型学習や、高度な英語運用能力を養う教育活動を実施する  
とともに、国際バカロリアの認定に向けた取り組みを行うこと、また県下初  
の新たな教育環境であることから、国際的な場面で浸透しやすい学校名が望まし  
いと思われまます。

1. 全国的にバカロリアを実施している学校は、私立の中高一貫校が主流であり、公立学校が上記の教育方針を掲げ、国際バカロリアの認定に向けた取り組みを行っている事例がなく全国初の取り組みであること、かつ日本の学校教育の将来を展望する新たな学校としてとして捉え、新たな学校教育環境として望ましい学校名のあり方を検討して頂ければ幸いです。なお、既存する学校名としては「国際」または「インターナショナル」という校名標記を使用している学校が多くみられます。

1. 日本国民として、与えられた等しく平等に教育を受ける権利からも、公立学校としての責務を果たす立場を考えると、現在バカロリアを実施している学校の大多数は大都市圏に集中しており、これからの地方教育や少子化に伴う地方の公立学校の改革（再編）のパイオニアとして期待されていることから、新たな学校教育環境として、ふさわしい学校名の検討が必要と思われます。

1. 高知県における就学援助について、全国的にみても困窮家庭率の高い本県においては、義務教育である中学校から高等学校への進学を断念する家庭も多くあると思います。しかし、高等学校への進学または短大や大学への進学は今や一般化されつつあります。そこで、新たな中高一貫教育校は、公立という立場とバカロリア認定大学への進路として、希望が高い存在となります。このような観点からも、未来あるものとして、新たな学校名でのスタートを要望致します。

1. 平成27年11月29日に行われた「高知県グローバル教育シンポジウム」の開催では、多くの学識経験者より、高知県の高等学校再編振興計画における新たな中高一貫教育の取り組みに、高い期待を示すご意見が得られています。

- 大都市圏以外の地域で、地域条件（学校の所在地等）による教育の格差を解消する取り組み
- 私立ではなく公立として、経済的な条件による格差を解消する取り組み
- 大学入学におけるIB選考の導入の拡大に向けて、地方公立校からの進学向上に繋がる取り組み
- 国際社会における企業としては、グローバル人材の育成に繋がる学校教育として非常に評価が高い取り組み

以上の内容で県民に対して期待を示されたことは、新たな学校教育として全国的にも国際的にも通用する学校名・校歌等が望ましいと思いを要望いたします。

## 「高知県立学校の校名に関する検討委員会」への要望

## (1) 「第1回検討委員会」開催までの流れと現状

平成28年2月22日に「第1回検討委員会」が開催されました。本委員会は、平成26年度において校名等については、平成27年度に平成26年度から平成35年度までの10年間の県立高等学校の進行の方向性及び適正な規模と配置を示す「県立高等学校再編振興計画」と「前期実施計画」が策定された後、「校名等に関する委員会」を開催する旨で協議を重ね、両校関係者ならびに係諸団体の認識、周知のもと今回の委員会開催となっております。

しかし、本委員会の開催前に一部、署名活動や委員会開催前日に署名活動等の掲載などがあり、ちょうど定期的に受験を控えた生徒たちの目や耳にすることとなりました。「第1回検討委員会」後の動きであれば、内容を熟知し適正な行動が行えると思いますが、残念ながら一部SNSなどによって、間違った方向での憶測や誹謗中傷するかのような内容が拡散しています。

そのことにより、関係する生徒たちは、非常に不安になったり、傷心する子ども達が増えていると聞いています。また、逆に生徒たち同士が誹謗中傷することの無いように私達も注意をしなければなりません。そして、このような状況の中で、中学生や高校生、また小学生たちが自らの将来の進路に向けて関係する学校や大学進学、就職など迎えました。

本来、生徒達にとって学生生活や学校教育で大切なことは、安心して将来を展望できる学校環境であり、それを実現する役目を我々、卒業生や保護者、さらに教職員や学校関係者が構築しなければならいと考えています。

その為にも「高知県立学校の校名に関する検討委員会」での適切な協議と検討をお願い申し上げます。また、SNSなどによって間違った情報や誹謗中傷等避けるためにも適切な対応と対応を合わせてお願い申し上げます。

## (2) 「委員会」開催までの動き

本委員会の開催までにあたり、当該する関係者以外の方は流れや動きが分からないと思いますので、平成25年度、平成26年度の動きについて以下に説明を致します。

【平成25年度からの流れ】

平成25年度  
平成26年1月27日  
再編振興計画を発表

南中高関係者は、発表以降に諸関係者と再三協議し、県ならびに教育委員会に対して説明会や協議会の開催を行ってまいりました。

平成25年度 県教委  
平成26年1月28日  
・高知新聞「閉校」の記載  
・「閉校」記載は間違い  
「統合」である

平成25年度  
平成26年1月28日  
高知新聞「閉校」との記載

協議

平成25年度 南中高  
平成26年1月～2月  
・南中高関係者と県教委との話し合い  
・新聞報道「閉校」→「統合」訂正要望  
・「統合」(案)の見直し要望  
・「統合」の必要性などを協議 他

平成26年度  
「関係者における協議会」を開催  
(各南中高、西高、須崎高、須崎工の関係者へ開催)

平成25～26年度 南中高  
・統合案への白紙撤回など、要望書等諸活動

統合する場合の校名等について

再編振興計画における問題や課題について

平成26年度 南中高  
・100項目以上による質疑書の提出  
・南中高の現状と持続性について  
・統合(案)に対する矛盾点 など

平成26年度 県教委  
・校名については、「再編振興計画」が決まっ  
てからの協議と説明  
※平成27年度からの  
検討委員会による協議

協議会全14回中  
南中高関係5回開催  
各種資料等の提出  
での検討・協議

平成26年度 南中高  
・統合時における課題や問題を提起

平成26年度 (10月)  
「県立高等学校再編振興計画」「前期実施計画」が策定

平成26年度 県教委→関係者に対して  
統合する場合の校名等について平成27年度に  
検討委員会を設置

平成26年度 (11月) 県民に対して  
「高知県グローバル教育シンポジウム」を開催

平成27年度 (2月)  
「高知県立学校の校名に関する検討委員会」第1回を開催

平成27年度 南中高 (←県教委から)  
・開催にあたり要望書を提出

平成28年度 (4月以降)  
「高知県立学校の校名に関する検討委員会」第2回以降

平成27年度 南中高 (←県教委から)  
・要望書を提出

以上、上記にこれまでの流れや動きの概要を記載しました。  
今回の「再編振興計画」においては100%関係する諸団体や関係者が合意したとは思えませんが、要望書にも記載の通り、高知県の学校教育や目指す学校教育、そして何よりも現役の学生やこれらの学生にとっての教育環境への未来を「高知県立学校の校名に関する検討委員会」での真摯なる検討を期待しお願い申し上げます。



平成 28 年 3 月 27 日

高知県教育委員会事務局高等学校課再編振興室  
高知県立学校の校名に関する検討委員会 様

須崎高等学校同窓会 (鳩友会)

会 長 海地 雅弘

副会長 松田 健

### 平成 31 年度開校予定の統合高校の校名について

謹啓 春色のなごやかな季節、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて本年で創立 70 年を迎える須崎高等学校は、創立場所の旧須崎町城山のふもと鍛冶町から現在の新荘川の畔、下分への移転、そして平成 31 年度に須崎工業高等学校との統合により現須崎工業高等学校の敷地内に高吾地区の拠点校として開校予定はご案内のとおりでございますが、同窓会の心のよりどころである現在の高校場所もなくなり、校名も消滅しようとしていることに創立当時の諸先輩方はもとより同窓会の多数の方々から場所もなくなり、校名もなくなるのは余りにも寂しい、やはり同窓会の多数の方から場所もなくなり、校名もなくなるという声が非常に多いように思われます。

同窓会の総意といたしましては、諸先輩方の思いを酌み、校名は「須崎高校」としていただきたいというのが、高知県立学校の校名に関する検討委員会第二回の会合に向けた意見でございます。

しかし現役員での話し合いでは、安心安全を第一にハード面ソフト面を中心にしつかりとした整備をして平成 31 年を迎えていただきたいと考えておりますし、委員の皆様には高吾地区の拠点校として相応しい校名をいろいろな角度からフリーな立場で考えていただきたいと思っております。

ただ私も同窓会としての総意といたしまして校名は「須崎高校」としてお願い申し上げます。

よろしくお願いいたします。

謹白